

障がい者のパソコンサークル活動などの応援を

スタート町屋で3ヶ月間の就労へのパソコン講習を行っているが、就労に結びつかなかった場合でも、パソコンを覚えたいという障がい者もいる。人生を豊かにするためにも、せつかく習った技能を維持向上させるためにも、パソコンサークル活動などを応援したらどうか。

区：応援していきたい。



木造密集地の6m道路確保のため、移転を余儀なくされる区民の受け皿にも!

子ども・子育て会議条例を可決

いよいよ、荒川区の今後の子育て施策を検討する、子ども・子育て会議の設置、審議が始まる。ニーズ調査およびヒアリング、作業部会など、区民参加でわが町らしい事業計画の策定が求められている。幼稚園・保育園不足、保育者の低賃金、在宅子育ての孤立化、児童虐待の増加、子どもの貧困率の増加など子育てをめぐる状況は厳しい。活発な議論・調査を期待し、審議会の行方に注目しよう。

空き室の多い区民住宅は子育て応援に活用を 町屋8丁目住宅は空き室率 55%

区はバブル期の地下高騰に伴い、住宅確保が難しくなった中堅所得者世帯を対象に、18年前からマンションを借り上げて区民に供給。15年前、町屋5丁目区民住宅を建設した(高齢者・障がい者用も併設、尾久の原公園隣)。2LDK~4LDK、家賃11万~18万程度。区内でマンション供給が盛んな最近は空き室が目立っている。

区は子育て家庭に2万円の助成金を出して募集しているが、応募がない。子育て応援を強化し、使用料を値下げするなど工夫が必要だ。現在開催されている住宅審議会での議論に期待したい。

	室数	空き室	空き室率
町屋8丁目(8-5-6)	40戸	22戸	55.0%
西日暮里3丁目(3-7-6)	37戸	10戸	27.0%
東日暮里6丁目(6-7-12)	24戸	7戸	29.2%
町屋5丁目(5-9-2)	134戸	69戸	22.4%

視察

再生可能エネルギーの導入による 持続可能な地域づくりに関する条例

今年3月、飯田市再生可能エネルギーの導入による持続可能な地域づくりに関する条例を制定した飯田市。市民の出資で太陽光発電をすすめるお日様進歩エネルギー株式会社は有名だが、今後、再生エネルギーの発展を市民と行政と地域の協働で目指して行くため、<地域環境権=再生可能エネルギー資源から生まれるエネルギーを市民共有の財産と捉え、市民には、これを優先的に活用して地域づくりをする権利がある>を全国で初めて規定した。「お金」になる地域の再生可能エネルギー資源を活用する事業をすすめるルールを示したものである。再生可能エネルギー導入支援審査会をつくり、様々な支援を模索するという。エネルギー政策はこれからの時代、地方自治体の主要な政策であるとする飯田市の取り組みは素晴らしい。国も都も、荒川区も、エネルギーへの区民の取組を誘導しなくてはならない。